

ひよめ、ひよめ、と
一年生たちは、いつものくせで
うたいはじめました。



新美南吉



にいみなんきち
(1913-1943)

大正2年7月30日、愛知県知多郡半田町(現・半田市)に生まれる。幼くして母を亡くし、養子に出されるなど寂しい子ども時代を送る。旧制半田中学校卒業後、「赤い鳥」入選を契機に北原白秋や巽聖歌の知遇を得る。昭和18年、結核のため29才で世を去る。

あらすじと解説

ひよめとは半田の方言でカイツブリのこと。小型の水鳥で、昔は池で浮かんでいるのをよく見かけた。餌をとるために時々水に潜っては思わぬ所から顔を出すので見ていて面白い。「ひよめ、ひよめ、だんごやアるに くうぐうれッ♪」こんなわらべ歌が地元には残っている。南吉は幼い頃に歌ったこの歌を使い、「一年生たちとひよめ」を書いた。物語の中で、一年生たち

は先生から「嘘をついてはいけない」と教えられる。でも池まで来るといつものくせで「ひよめ、ひよめ…」と歌い出してしまふ。さて困った。「団子をやる」と言っただけは嘘になる。子どもたちはどうするのだろうか。南吉の心憎い解決策に私たちは思わず微笑んでしまふ。

▶▶ 新美南吉記念館学芸員 遠山光嗣

絵

ワキタ ヨシコ

イラストレーター 型染めでイラストをつくっています。生活のお供に、楽しく、こころよい色と形をお届けできるよう、日々奮闘中。武蔵野美術大学油絵学科卒業。福岡県出身、名古屋市在住。wakitao.com

●絵について 「一年生たちの心情も清らかですが、ひよめの愛らしさがとても印象に残りました。ぶくりともぐる、というところが特に好きです」